

平屋の街をつくる。



背景

『平屋の街！それも都会に？！』

「平屋って贅沢で憧れるよね」
「でも、広くないといけないから、高いでしょう？」
「都会暮らしも、諦めたくないし」
そう思われている方が多いと思います。



このように、

少しだけ心に余裕のある人たちが集まる
「平屋の街」が、増えていくことを期待し、
「平屋の街をつくる。」は、スタートしています。



『誰もが平屋を選べる理由』

そこで、拓匠開発が提案するのが、「平屋の街をつくる。」というシリーズです。
「街全体で借景を楽しめるロケーション」を条件に宅地を開発。
庭の代わりに借景すれば十分豊かな環境であるため、土地を有効に使って
平屋を設計でき、都会の狭い土地でも平屋を持つことが可能です！
広い土地を必要としない分、コストを抑えることができるのが、
誰もが平屋を選べる理由です。



『平屋の街という個性』

平屋の街では、隣に2階建てが建ってしまい、急に日当りが悪くなってしまった...
ということはありません。住みやすさ、空間のゆたかさなど、
平屋の個性を大切にした街づくりをしています。

Case Study-1 都賀南 6戸

背景に豊かな森を背負う、都賀南全20区画。街全体が自然の恵みを
享受できるよう設計しており、森のそばで静かな暮らしをできる環境が整っています。



Case Study-2 鶴の森 5戸

富士山を望むひな壇の街、鶴の森。平屋街区には、どの部屋からも富士山を望む
プランを設計できる敷地を取っており、動線がシンプルで住みやすい
平屋ならではの住宅が並びます。



Case Study-3 八千代緑が丘 11戸

バラ好きには日本一といつても過言ではない京成バラ園の庭園を借景し、
奥行きある眺めが広がる八千代緑が丘。





TREE HOUSE FOR NEXT 1000 YEARS

ツリーハウスの街



森の潤滑油
「拓匠開発」のロジック

- 「木」と「家」を扱う企業としての使命
- 住宅購入者の人生をより豊かにする
- 千年の森での感動体験

森の仲間が必要

運営会社の数人だけでは無理

現状 問題点

○千年の森
森の手入れをする仲間が必要

→運営会社では広大な森の手入れ／管理が行き届かない
→森に関わる人が少ない、もっと多くの人に関わってもらいたい

打開策 啓蒙（機会と誘導）

○拓匠開発
木造の住宅をつくる企業として
接点があるからこそ、森を守っていく使命がある。

森の潤滑油 拓匠開発が森に関わる人として住宅購入者を継続的に誘致していく&呼び込んでいく



ツリーハウスの街をつくる

4 持続可能な森へ

○千年の森
森に関わる人が増え、
人と共存する森として持続する

○拓匠開発
住宅購入者の生活の豊かさに貢献できる

森の手入れをしたい

3 整備の継続

○住宅購入者
よりよい滞在／体験をするために
ツリーハウス周辺の環境を整備

○拓匠開発
ツリーハウスの街を発展させていく
呼び込み活動ができるようになる

2 関係者の増加

○千年の森
ツリーハウスが増える
→森の手入れをしてくれる仲間が増える

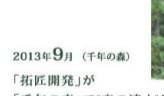
森の仲間
(森の手入れをする人)
が増える

森が管理される

1 気付きと再確認

○住宅購入者
・森に感動、本来の人間のリズムに気がつく
・次の1000年の森と自分の関わりについて考える
・共に訪れる家族との関係上も他では得られない体験ができる

○拓匠開発
住宅購入者が、森について興味を持つ
きっかけをつくることができる



2014年8月9日 (千年の森)

森の達人と「千年の森勉強会」
森のくらしの間に初めて訪れ、千年の森について学ぶ。森の手入れのことや、森と自分が関わっていくこと、関わったそばから、森がどうなっていくかなどを学ぶ。

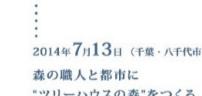


忘れないでね！



2014年10月4日 (千年の森)
拓匠開発ツリーハウス
住宅購入者ウッドデッキ制作体験
(ツリーハウス制作キックオフ)

この活動を種火に、
ツリーハウスの街が
継続的に成長していく



2014年8月9日-10日 (千年の森)

森の達人とバードハウス・鹿の椅子づくり
都会に戻っても、千年の森を思い出してもらうきっかけになるように、
千年の森で切った木やなめた鹿の草を材料に、バードハウスや鹿の革をつかった三脚椅子をつくる。

ツリーハウスがもたらすメリット

森とツリーハウスがつくる独特の関係
最大のメリットは、森の手入れをする仲間が増えということ。
関わる人が増えることで、森林の保全が、持続可能となる。

千年の森自然学校

ツリーハウスをつくる住宅購入者親子を見て、
千年の森に訪れた一般のお客様が、ツリーハウスを持ちたくなる！

ツリーハウスを持つまでの流れ

1 | 森から木を間借りする

間伐が必要になったカラマツの人工林から、「守る」木を1本を選ぶ。選んだ木を森から間借りし、ツリーハウスを作り、のベースとなる木材を使って、ツリーハウスを作り上げていく。



2 | ツリーハウスをつくる

まずは、選んだ1本の周りの木を間伐する。間伐をきっかけに新たな千年に向けて森歩みはじめる。ツリーハウス作りのベースとなる木材を使って、ツリーハウスを作り上げていく。

3 | ツリーハウスで生活する

出来上がったツリーハウスでの滞在を気持ちよく過ごすために、その都度、環境整備し続ける必要がある。周辺の森は、ツリーハウスの持ち主が白ら考えて好きにしているルール。

ツリーハウスがもたらすメリット

森とツリーハウスがつくる独特の関係
最大のメリットは、森の手入れをする仲間が増えということ。
関わる人が増えることで、森林の保全が、持続可能となる。

都会では生まれないコミュニケーション

この森のツリーハウスで「生活を共にする」時間を重ねて成長する家族の間のコミュニケーションは、生活を共にする時間が少なく共通の趣味がない家族間のそれは、まったく質が異なる。また、ツリーハウスを持つ住民家庭同士のコミュニケーションも、同じ価値観と経験で結ばれているためとても強く、街の強みとなっている。

実際につくっている人がいること、興味をもたれやすいんだ！

千年の森自然学校

長野県大町市 / 森の運営

300ヘクタールの広大な森で、ツリーハウスと自然学校（対親子・対学生）を運営する千年の森自然学校。30のツリーハウス、7つの木、20の窓、標高差は700m、豊かな自然環境広がり、土壌有機物やカモシカ約20頭をはじめとした森林生態系に恵まれた、四季によって表情が異なる豊かな森である。その考え方と共にしたツリーハウスを持つ家族や多くの自然学校への参加者が森と共に守り、つくり始めて約20年…家庭が成長していくのと同様に、歴史を重ねている。

拓匠開発 グループ

千葉県千葉市 / 不動産・宅地開発業

「森にある街 = モリアル」「平屋の街をつくる。」などの住宅シリーズを千葉県に展開する、拓匠開発グループ。街づくりは、街並が出来たら終わりというところではなく、更に成長していくための維持管理として様々な仕組みが必要であるが、そこが森の管理との共通点でもあり、拓匠開発は「千年の森」に強く共感している。また、お客様が住宅を持つことを決意するまでの道筋に立ち合えることを活かして、一生の間でお客様を提案すると共に、継続的にできる森での暮らし、森での学びを其にすることを望んでいる。